

9 (平成30年度試験) 小カブの冬季栽培における移植適期検討試験

試験の目的

小カブは直播栽培が一般的であり、農業センターの過年度試験において、冬期栽培の播種適期は9月中旬であると結論づけましたが、市内の多くのハウスではその時期はまだ前作物が栽培されています。このことから、ハウスの使用開始時期を遅らせるためペーパーポット（㈱日本甜菜製糖の商標）を使用した移植栽培について、移植適期等を調査し、主に12月上旬～1月末の出荷を想定した課題を整理しました。

関係先

市内生産者・市内直売所

試験概要

- (1) 供試品種 ゆきわらし（カネコ種苗）
- (2) 栽植密度 条間 15 cm, 株間 15 cm, 10 a 当たり 44,444 株
- (3) その他
 - ・無加温
 - ・内張カーテン, トンネル, 銀ネズマルチ使用。
 - ・ペーパーポット SM2406 (口径 2cm, 高さ 3cm)

試験区の設定

試験区名	作型	播種日	定植日
9/19 直播区	直播	9月19日	—
9/19 移植区	移植	9月4日	9月19日
9/25 移植区	移植	9月11日	9月25日
10/2 移植区	移植	9月19日	10月2日
10/9 移植区	移植	9月25日	10月9日
10/16 移植区	移植	10月2日	10月16日

試験結果

(1) 栽培概要

平成30年度は暖冬傾向でしたが、最高気温は平年よりも高く、最低気温は平年よりも低く推移しました。しかし、外気温が -20°C 以下になることは少なく、小カブが凍結して枯れることはありませんでした。

11月下旬頃から低温により作物体の凍結が見られましたが、その数日後には解凍し、葉の傷み等はありませんでした。しかし凍結と解凍を繰り返すことにより、徐々に外葉の萎れが発生してきました。

12月中旬頃から葉柄が割れるなどして傷んだ葉は除去しましたが、除去枚数は9/19移植区, 9/25移植区, 9/19直播区, 10/2移植区の順に多くなりました。10/9移植区, 10/16移植区では傷んだ葉はありませんでした。

(2) 生育及び収穫調査結果

9/19 直播区は11月下旬に収穫サイズである球径50mmを超え、10/2 移植区も同じ時期に同等の球径に達し、その後の生育や収量も同等だったことから、適性が高い作型であると考えられました。また、10/9 移植区も12月上旬には球径50mmを超え、冬期栽培は可能と思われませんが、9/19 直播区より球の肥大がやや遅いことから、保温の強化による初期生育の確保や、日中のハウス温度をやや高めに管理する等の対策が必要です。

(3) 移植栽培の可能性と注意点

本試験において、小カブの冬期無加温作型における移植栽培は可能であり、苗の移植時期が適切であれば、直播栽培と同等の生育及び収量が得られることが認められました。なお、移植栽培は直播栽培と以下の点が異なるため注意が必要です。

- ・根の形状が直根ではなくひげ根になる。
- ・根の支持力が直根より弱いため、球が肥大するまではトンネルの開閉等で葉が引っかかると、そのまま抜けることがある。
- ・収穫時にペーパーポットと共に土を引き上げるため、洗浄に労力を要する。

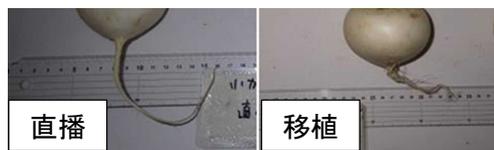


図1 9/19 直播区



図2 9/19 移植区



図3 9/25 移植区



図4 10/2 移植区



図5 10/9 移植区



図6 10/16 移植区

すべて平成30年12月19日撮影（図1～4は傷んだ葉を除去）